

# 市の民の声

## 人事案件

### 編集後記



川辺町 永田 古市厚子

### 人の基盤は「家族」にあり

「お母さん、って呼んでいいの？」私のファミリーホームで引き取った子は、そのひと言から始まりです。実の親をお母さん、お父さんと呼んだこともない子もいれば、親なんていないと断言する子もいました。様々な家庭環境で複雑な育ち方をした子がたくさんいます。ファミリーホームという施設を立ち上げ、虐待児と呼ばれる子どもを家族に近い環境の中で育てています。色々な症状を抱え難しいこともありませんが、心を開いてくれる

と、とても素直で可愛い一面を見せてくれるのが、この仕事のいいところです。

時には、子ども達は信じられないような行動を取ることもあります。訳もなく突然家を飛び出したり、無我夢中で机にかじり付いて勉強したり、2週間くらいとてつもない量のランニングをし始めたり。虐待のせいで、家族というものを信じられない子ども達は様々な問題を起しますが、そこにはすべて理由があるのです。

私は「家族」をやり直してもらおうことで、これからたくましく生きていって欲しいと願います。

鹿児島ではファミリーホームという制度は広く知られていません。子どもの福祉に力を注いでいただき、研修の機会を増やしてほしいです。



知覧町 瀬世 江平作夫

### 地方変化に感じている

地方創生が叫ばれている中で、将来を担う若者の流出には歯止めがかかっていません。この春も学校を卒業した若者は故郷を出て行きました。その親世代は高齢化し、人口減少の一途です。わが街も他の地方と同様に空き家が増えて過疎化してきています。人口が増えれば良いと期待している人は大勢います。そのためには働く場所を多くし、若者が出て行かなくても生活できるようにすれば良いということもよく理解しています。

同じ九州にあっても長崎県の長与町では長期間にわたり人口が増加しています。これまでニュータウン造成では道路や下水などインフラ整備を行い、一方で幼児から小・中・高校や大学まで教育の街として若者が集まる住みやすい環境づくりを行ってきたようです。

活気ある地域に生まれ変わるには、都会から地方への人口移動が起らないと難しそうです。お茶や甘藷など農業と観光を中心とした地域ですが、消費を増やすには他の産業に従事する人口を増やす努力が欠かせないと思います。都会にないくてもできる研究機関の誘致も可能だと思えます。これまでも増して企業誘致に力を入れ、一年に一社程度の誘致を進め、仕事場を創り出すことを期待しています。

### ◆人権擁護委員◆

川辺町 野崎 井上 陽子 氏



任期は、市が議会の意見を求め法務大臣に推薦し、法務大臣が委嘱した日から3年間です。

### ◆議員の辞職◆

蓮子 幹夫 氏

平成27年8月3日付けで議員辞職願が提出され、議長において許可されました。

政府は地方創生を掲げ、主要施策の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、「南九州市総合計画」推進に強力な追い風である。「南九州市創生総合戦略(案)」を全員協議会で、執行部と共に協議しました。パブリックコメントや地域審議会等市民からも意見を求め、今後5カ年の基本施策が定められます。雇用創出による産業振興や移住・定住促進など大いに期待されます。議員の任期も残り少なく12月13日には、合併後3回目の市議会議員選挙が行なわれます。市民にとって4年に一度の大事な選挙です。棄権することなく投票することが大切です。(吉永)

### ▼広報編集委員会

- 委員長 西 次雄
- 副委員長 吉永 賢三
- 委員 松久保正毅
- 蔵元 慎一
- 内園知恵子



◎発行：鹿児島県南九州市議会  
TEL 0996(03)410-1

◎編集：議会広報編集委員会  
FAX 0996(03)46008

◎発行責任者：菊永 忠行  
ホームページ <http://www.city.minamikyushu.lg.jp>